

LISTEN.  
THINK.  
SOLVE.<sup>SM</sup>

# ***RSLinx<sup>®</sup> Enterprise***



## 入門ガイド

PUBLICATION LNXENT-GR001E-JA-E-June 2009  
Supersedes Publication LNXENT-GR001D-EN-E

**当社への連絡方法** テクニカルサポートの電話番号 : 1.440.646.3434 (米国)  
オンラインサポート : <http://www.rockwellautomation.com/support>

**著作権に関する注意** © 2009 Rockwell Automation Technologies, Inc. All rights reserved. Printed in USA.

本書とそれに付属する Rockwell Software® 製品は、Rockwell Automation Technologies, Inc. に著作権で保護されています。当社の事前の文書による承諾なしに、本ソフトウェアおよび本書の一部または全部を複製することを禁じます。詳細は、ライセンス契約を参照してください。

**商標** Allen-Bradley, ControlLogix, FactoryTalk, PLC-5, Rockwell Automation, Rockwell Software, RSLinx, RSView, the Rockwell Software logo, and VersaView は、Rockwell Automation, Inc. の登録商標です。

以下のロゴと製品は、Rockwell Automation, Inc. の商標です。

RSBizWare, the RSBizWare logo, RSBizWare Batch, FactoryTalk Batch, RSLogix, Logix5000, RSOPC Gateway, FactoryTalk Gateway, Data Highway Plus, DH+, RSView, FactoryTalk View, RSView Studio, FactoryTalk View Studio, PanelView, RSView Machine Edition, RSView ME Station, RSView32, FactoryTalk アクティベーション, FactoryTalk 管理コンソール, FactoryTalk Alarms and Events, FactoryTalk Automation Platform, FactoryTalk サービスプラットフォーム, FactoryTalk 診断, FactoryTalk ディレクトリ, FactoryTalk ライブデータ, RASAssetSecurity, FactoryTalk セキュリティ, RSSql, FactoryTalk Transaction Manager, GuardLogix, GuardPLC, MicroLogix, PanelView, RSLinx Classic, RSLinx Enterprise, RSNetWorx, RSNetWorx for ControlNet, RSNetWorx for DeviceNet, SLC 5, SLC 500, Powermonitor, Powermonitor 1000, and Powermonitor 3000

その他の商標と登録商標は、それぞれの所有者が保有します。

**他の商標** Microsoft, Windows, Windows ME, Windows NT, Windows 2000, Windows Server 2003, および Windows XP は、Microsoft Corporation の米国またはその他の国での登録商標または商標です。

Adobe, Acrobat, および Reader は、Adobe Systems Incorporated の米国またはその他の国での登録商標または商標です。

ControlNet は、ControlNet International の登録商標です。

DeviceNet は、Open DeviceNet Vendor Association, Inc. (ODVA) の商標です。

Ethernet は、Digital Equipment Corporation, Intel, および Xerox Corporation の登録商標です。

OLE for Process Control (OPC) は、OPC Foundation の登録商標です。

その他の商標と登録商標は、それぞれの所有者が保有します

**保証** この製品は、製品ライセンスに応じて保証されています。この製品の性能は、システム構成、実行するアプリケーション、オペレータ制御、保守、およびその他の要因によって変わります。当社は介入する要因について責任を負いません。

製品の運用は、ユーザによって異なります。

本書の内容は、印刷時点での最新情報が反映されていますが、付属のソフトウェアは、それと異なっている場合があります。製品改良のため、仕様などを予告なく変更することがあります。

本書で示す図表やプログラム例は、本文を容易に理解できるように用意されているものであり、その結果としての動作を保証するものではありません。個々の用途については数値や条件が変わってくるが多いため、当社では図表などで示したアプリケーションを実際の作業で使用した場合の結果については責任を負いません。

本書に記載されている情報、回路、機器、装置、ソフトウェアの利用に関して特許上の問題が生じて、当社は一切責任を負いません。

Version: CPR 9 Service Release 2

Modified: March 17, 2009

本版は、LNXENT-GR001E-EN-E - June 2009 の日本語版のマニュアルです。

LNXENT-GR001E-EN-E に基づいて製作しています。

# 目次

## 第 1 章 ・ はじめに

|       |                    |     |
|-------|--------------------|-----|
| 1.1   | 対象読者 .....         | 1-1 |
| 1.2   | 追加情報の記載場所 .....    | 1-1 |
| 1.2.1 | ヘルプ .....          | 1-1 |
| 1.2.2 | リリースノート .....      | 1-2 |
| 1.2.3 | トレーニングプログラム .....  | 1-2 |
| 1.2.4 | ナレッジベース .....      | 1-2 |
| 1.2.5 | コンサルティングサービス ..... | 1-2 |

## 第 2 章 ・ RSLinx Enterprise の概要

|       |  |     |
|-------|--|-----|
| 2.1   | RSLinx Enterprise とは ? .....                       | 2-1 |
| 2.2   | 特長および利点 .....                                      | 2-2 |
| 2.3   | 基本概念 .....   | 2-3 |
| 2.3.1 | FactoryTalk サービスプラットフォーム .....                     | 2-3 |
|       | FactoryTalk ディレクトリ .....                           | 2-3 |
|       | FactoryTalk ライブデータ .....                           | 2-3 |
|       | FactoryTalk 診断 .....                               | 2-4 |
|       | FactoryTalk 管理コンソール .....                          | 2-4 |
|       | FactoryTalk セキュリティ .....                           | 2-4 |
|       | FactoryTalk アクティベーション .....                        | 2-4 |
| 2.3.2 | ローカルアプリケーションとネットワーク<br>アプリケーション .....              | 2-4 |
| 2.3.3 | FactoryTalk 管理コンソール および FactoryTalk View Studio .. | 2-5 |
| 2.3.4 | 設計時間とランタイム .....                                   | 2-5 |
| 2.4   | インストールおよび構成のチェックリスト .....                          | 2-6 |

## 第 3 章 ・ RSLinx Enterprise のインストール

|       |  |     |
|-------|--|-----|
| 3.1   | 最小システム要件 .....                                   | 3-1 |
| 3.1.1 | ハードウェア要件 .....                                   | 3-1 |
| 3.1.2 | ソフトウェア要件 .....                                   | 3-1 |
| 3.1.3 | ソフトウェアの互換性 .....                                 | 3-2 |
| 3.2   | RSLinx Enterprise のインストール .....                  | 3-2 |
| 3.3   | 既存のインストールの更新 .....                               | 3-4 |
| 3.3.1 | FactoryTalk 対応製品がすでにインストールされている<br>システムの更新 ..... | 3-5 |

|              |  |     |
|--------------|--|-----|
| <b>第 4 章</b> | <b>・ RSLinx Enterprise の起動およびユーザインターフェイスの作業</b>                            |     |
| 4.1          | FactoryTalk 管理コンソールの起動   | 4-1 |
| 4.2          | FactoryTalk 管理コンソールユーザ・インターフェイス・コンポーネント                                    | 4-2 |
| 4.3          | RSLinx Enterprise の FactoryTalk アプリケーションへの追加                               | 4-3 |
| 4.4          | RSLinx Enterprise Communication Setup エディタでの作業                             | 4-4 |
| 4.4.1        | マウスの右クリックと左クリック  | 4-6 |
| <b>第 5 章</b> | <b>・ RSLinx Enterprise サーバプロパティの定義</b>                                     |     |
| 5.1          | 汎用サーバプロパティの定義  | 5-1 |
| 5.2          | RSLinx Enterprise を冗長サーバをサポートするように設定 (オプション)                               | 5-2 |
| 5.3          | RSLinx Enterprise を FactoryTalk Alarms and Events をサポートするようにセットアップ (オプション) | 5-3 |
| <b>第 6 章</b> | <b>・ 構成の作成</b>   |     |
| 6.1          | ドライバの追加  | 6-1 |
| 6.1.1        | Ethernet ネットワークで稼動している場合   | 6-1 |
| 6.1.2        | Ethernet 以外のネットワークで稼動している場合  | 6-1 |
| 6.2          | デバイスの追加  | 6-2 |
| 6.2.1        | ブラウズによるデバイスの自動追加   | 6-2 |
|              | 仮想バックプレーンのブラウズ   | 6-2 |
| 6.2.2        | デバイスの手動追加  | 6-2 |
| 6.3          | ショートカットの作成   | 6-3 |
| <b>第 7 章</b> | <b>・ トラブルシューティング</b>   |     |
| 7.1          | 問題があるときの最初のチェック内容  | 7-1 |
| 7.2          | RSLinx Enterprise 用のトラブルシューティングツール   | 7-1 |
| 7.2.1        | FactoryTalk 診断イベントログ   | 7-2 |
| 7.2.2        | 事前定義された項目  | 7-2 |
| 7.3          | よくある質問に対する回答   | 7-2 |
| 7.3.1        | RSLinx Enterprise のヘルプはどこにありますか?   | 7-2 |
| 7.3.2        | Start メニューに RSLinx Enterprises がありません                                      | 7-2 |
| 7.3.3        | なぜタグをブラウズできないのですか?   | 7-2 |
| 7.3.4        | なぜ Machine Edition 構成を編集できないのですか?  | 7-3 |
| 7.3.5        | 有効なアクティベーションがあるかはどのように確認すればよいのでしょうか?                                       | 7-3 |
| 7.3.6        | RSLinx Enterprise と RSLinx Classic を同じコンピュータで実行できますか?                      | 7-3 |
| 7.4          | テクニカルサポートへの連絡方法  | 7-4 |

|             |   |     |
|-------------|---|-----|
| <b>付録 A</b> | <b>• RSLinx Enterprise のアクティベーション</b>               | A-1 |
| <b>付録 B</b> | <b>• 高度なトピックス</b>                                   |     |
| B.1         | 仮想バックプレーン   | B-1 |
| B.2         | サポートされているネットワークの経路                                  | B-2 |
| B.3         | RSLinx Enterprise 構成の移動                             | B-2 |
| B.3.1       | ショートカットの移動  | B-2 |
|             | コンピュータから他にショートカットを移動：<br>同じアプリケーション                 | B-2 |
|             | 同じコンピュータでショートカットを移動：<br>異なるアプリケーション                 | B-3 |
|             | あるコンピュータから他にショートカットを移動：<br>異なるアプリケーション              | B-4 |
|             | あるコンピュータから他にショートカットを移動：<br>異なる FactoryTalk ディレクトリ   | B-4 |
|             | 物理的なレイアウト ( ドライバおよびデバイス ) の移動                       | B-4 |
|             | あるコンピュータから他に移動                                      | B-4 |
| B.3.2       | CIP コネクションの管理                                       | B-6 |
|             | コネクションの数が制限された Logix コントローラ                         | B-6 |
|             | コネクションの数が制限された CIP プリッジモジュール                        | B-6 |
| B.3.3       | 事前定義された項目を使用して使用している<br>CIP コネクション数を求める             | B-6 |
| B.3.4       | FactoryTalk 診断を使用する CIP コネクションの追跡<br>およびトラブルシューティング | B-7 |
|             | FactoryTalk 診断                                      | B-7 |
| B.3.5       | CIP コネクションの割当ての変更                                   | B-7 |
| <b>付録 C</b> | <b>• RSLinx Enterprise と RSLinx Classic の使用</b>     |     |
| C.1         | Vista および Windows 2008 オペレーティングシステム                 | C-1 |
| C.1.1       | デュアルチャネル 1784-PKTX(D) ドライバ                          | C-1 |
| C.2         | すべてのサポートされるオペレーティングシステム                             | C-1 |
| C.2.1       | 1784-PKTX ドライバ                                      | C-1 |
| C.2.2       | シリアル DF1 ドライバ (RS232 DF1 デバイス)                      | C-2 |
| C.2.3       | 1784-PCIC(S) ドライバ                                   | C-2 |
|             | <b>用語集</b>  | G-1 |
|             | <b>索引</b>   | I-1 |




# 第1章 はじめに

「入門ガイド」では、RSLinx Enterprise のインストール、操作、および使用方法を説明します。

この章には、以下の情報を説明しています。

- 対象読者
- 追加情報の記載場所

 入門ガイドは、FactoryTalk Services インストール CD に PDF (ポータブル・ドキュメント・フォーマット) ファイルで含まれています。これらのファイルは、CD に入っている Adobe Acrobat Reader ソフトウェアを使用して表示する必要があります。

## 1.1 対象読者

以下について精通していることが必要です。

- Microsoft Windows オペレーティングシステム
- アレン・ブラドリーのプログラマブル・ロジック・コントローラ (PLC)
- ロックウェル・オートメーションの PLC プログラミングツール
- FactoryTalk 管理コンソール

## 1.2 追加情報の記載場所

RSLinx Enterprise の追加情報については、以下のリソースを参照してください。

### 1.2.1 ヘルプ

ヘルプは、製品の概要、手順、画面、および参照情報のすべてを提供します。ヘルプには、以下の基本的なコンポーネントが含まれています。

- Overview トピックス
- クイック・スタート・トピックス
- 段階的な手順
- ダイアログボックスの説明

FactoryTalk 管理コンソールの動作中にヘルプを表示するには、以下のいずれかを行なってください。

- FactoryTalk 管理コンソールのメインウィンドウで Help メニューから **Contents** を選択してから、ブック **Work with RSLinx Enterprise** を選択するか、または
- RSLinx Enterprise ダイアログボックスまたはプロパティページでヘルプをクリックするか、または

- [F1] キーを押すか、または
- Start メニューから、**Programs** **Rockwell Software** **FactoryTalk Tools**  
**FactoryTalk Help** **Work with RSLinx Enterprise** を順に選択する。

## 1.2.2 リリースノート

電子リリースノートは、RSLinx Enterprise を効果的に使用するために必要なハードウェアとソフトウェアのリストと、現在のリリースで使用できる既知の異常、解消された異常、および新しい機能のリストを提供します。

リリースノートは、FactoryTalk Services インストール CD から使用できます。RSLinx Enterprise を含むすべての FactoryTalk コンポーネントのリリースノートは、FactoryTalk のヘルプから有効です。FactoryTalk のヘルプは、FactoryTalk 管理コンソールから、または前の画面に説明したように Start メニューから起動できます。

## 1.2.3 トレーニングプログラム

ロックウェル・オートメーションは、定期クラスからお客様の施設で開催する特別クラスまでの幅広いトレーニングプログラムを提供します。

これらのトレーニングプログラムについてさらにお知りになりたい場合は、ロックウェル・オートメーションの Web サイトにアクセスするか、またはロックウェル・オートメーションのトレーニングコーディネータにお問い合わせください。Web サイトのアドレスと電話番号は、本書のページ ii に記載しています。

## 1.2.4 ナレッジベース

ロックウェル・オートメーションのカスタマ・サポート・センターは、よくある質問とそれに対する回答、および最新のパッチを含む広範囲のオンラインデータベースを提供します。このデータベースにアクセスするには、以下の Web サイト：[www.rockwellautomation.com/support](http://www.rockwellautomation.com/support) にアクセスしてから、Self-Service Support の下にある **Knowledgebas** を選択します。

## 1.2.5 コンサルティングサービス

ロックウェル・オートメーションは、ロックウェル・ソフトウェア製品を最適に使用できるように専門家によるコンサルティングと、ターンキー実施を提供します。詳細は、当社までお問い合わせください。

## 第 2 章 RSLinx Enterprise の概要

この章には、以下の情報を説明しています。

- RSLinx Enterprise とは？
- 特長および利点
- 基本概念
- インストールおよび構成のチェックリスト

### 2.1 RSLinx Enterprise とは？

RSLinx Enterprise は、FactoryTalk Live Data™ サーバおよび FactoryTalk Alarms and Events で構成されています。RSLinx Enterprise 構成は Communication Setup エディタを使用して作成および修正できるもので、プラントフロアのデバイス（コントローラおよび I/O スキャナなど）と通信するためにアプリケーションで使用されます。これによって、プラント・フロア・デバイスにあるセンサの読取り値や他のコントローラデータなどの値を、デスクトップ型コンピュータや専用 PanelView Plus ターミナルで見ることができるようになります。

RSLinx Enterprise 構成は、以下から構成されています。

- 通信デバイスのリストおよびその設定（例：ノード、通信速度など）
- デバイスドライバおよびそれに関連するプロパティ
- RSLinx Enterprise と通信可能な（つまり、データを交換する）潜在的なターゲットデバイスのリスト
- ショートカット：ショートカットは、接続するデバイスおよびデバイスに含まれるデータを表す名前です。ショートカットに関連付けられた通信パスにより、アプリケーションはそのデータの場所を認識できます。

FactoryTalk View Machine Edition アプリケーションの場合は、設計ソフトウェアである FactoryTalk View Studio を使用して、ランタイムアプリケーションに必要な RSLinx Enterprise ベースの通信を事前に構成できます。また、PanelView Plus で Windows CE ベースのツールを使用して構成を編集することもできます。

## 2.2 特長および利点

RSLinx Enterprise には、以下の特長と利点があります。

- FactoryTalk ライブ・データ・クライアントからのコントローラとデバイスデータへのアクセス
- Logix 通信用に最適化されています。
- 比較的少数の CIP コネクションをサポートするデバイスについてチェックして、読取りコネクションの数を制限します (書込みコネクションの数は 1 に固定されたまま)。
- 幅広い通信ドライバとルーティングオプションを提供します。
- 小型システム用のローカルアプリケーション (スタンドアロン型のアプリケーションともいう) と、大型システム用のネットワークアプリケーション (分散アプリケーションともいう) をサポートしています。
- ネットワークアプリケーションでは、プライマリサーバが故障したときに、切り換わるセカンダリまたは冗長サーバを指定するオプションがあります。
- FactoryTalk View Studio の外に編集機能を提供します。RSLinx Enterprise 構成を編集するために FactoryTalk View Studio をインストールする必要はありません。FactoryTalk サービスと共にインストールされる FactoryTalk 管理コンソールを使用します。
- FactoryTalk Alarms and Event をインストールしてサポートします。FactoryTalk Alarms and Event については、ヘルプを参照してください
- FactoryTalk セキュリティをサポートして、システム管理者にオートメーションシステムでのリソース (アプリケーションまたは領域など) へのアクセス、またはタスクを実行する能力 (読取りと書き込みなど) を制御するための手段を提供します。
- FactoryTalk ゲートウェイと共に使用して、サードパーティ製品のための標準の OPC 接続性を FactoryTalk システムに提供します。FactoryTalk ゲートウェイについては、FactoryTalk ゲートウェイのヘルプを参照してください。

## 2.3 基本概念

FactoryTalk および RSLinx Enterprise に関する基本概念を理解した後で、FactoryTalk 管理コンソールで RSLinx Enterprise の作業を開始することが重要です。FactoryTalk については、FactoryTalk のヘルプを参照してください。

### 2.3.1 FactoryTalk サービスプラットフォーム

従来 FactoryTalk オートメーションプラットフォームと呼ばれていた FactoryTalk サービスプラットフォームは、ロックウェル・オートメーションのソフトウェア製品が構築する基本アーキテクチャおよびサービスセットです。

FactoryTalk サービスプラットフォーム：

- 共通のサービス (診断メッセージ、状態モニタサービス、リアルタイムデータへのアクセスなど) を提供し、オートメーションシステム全体で (タグおよびグラフィックディスプレイなどの) プラントリソースを共有します。
- プラントフロアのリソースを 1 回定義すれば、製品の垣根を越えてこれらのリソースに同時にアクセスできるようになります。
- 集中セキュリティサービスをサポートします。

FactoryTalk サービスプラットフォームには、以下のコンポーネントがあります。

#### FactoryTalk ディレクトリ

FactoryTalk ディレクトリによって、プラント・フロア・リソース (データタグやグラフィックディスプレイなど) へのアクセスに使用する共通のアドレスブックを共有できるようになります。

FactoryTalk サービスプラットフォームには、Local Directory と Network Directory という 2 つのディレクトリが含まれています。Local Directory では、ディレクトリサーバ、すべてのプロジェクト情報、および関係するすべてのソフトウェア製品が 1 台のコンピュータ上にあります。ローカルアプリケーションはネットワーク全体で共有できません。Network Directory では、ネットワーク上の複数のコンピュータにまたがって、複数の FactoryTalk 製品からのプロジェクト情報を編成します。

#### FactoryTalk ライブデータ

FactoryTalk ライブデータは、FactoryTalk 製品とデータサーバとの間の接続を管理します。FactoryTalk View や FactoryTalk Transaction Manager などのクライアントソフトウェア製品にかわって、OPC-DA サーバ (プロセス制御 - データアクセス用の OLE) およびライブ・データ・サーバとの間で値の読み書きを行いません。

## FactoryTalk 診断

FactoryTalk 診断は、FactoryTalk システムを通じて生成されたアクティビティ、ステータス、警告、およびエラーメッセージを収集し、これらへのアクセスを提供します。

## FactoryTalk 管理コンソール

FactoryTalk 管理コンソールはオプションのスタンドアロンツールで、FactoryTalk 対応アプリケーションを構成および管理できます。

## FactoryTalk セキュリティ

FactoryTalk セキュリティは、オートメーションシステムへのアクセスを制御できる集中セキュリティサービスを提供します。FactoryTalk セキュリティの構成については、ヘルプの “ About FactoryTalk Security ” を参照してください。

## FactoryTalk アクティベーション

FactoryTalk アクティベーションは、ロックウェル・オートメーションのソフトウェア製品をアクティブにして、ソフトウェアのアクティベーションファイルを管理するための安全なソフトウェアベースのシステムを提供します。アクティベーションについては、付録 A を参照してください。

### 2.3.2 ローカルアプリケーションとネットワークアプリケーション

アプリケーションは、データサーバ、HMI サーバ、およびアラームとイベントサーバなどの要素を含むプロジェクト情報を編成し、FactoryTalk システムに参加するすべての FactoryTalk 対応製品で使用できるようにするものです。

- **ネットワークアプリケーション**は、FactoryTalk Network Directory で保持されます。プロジェクト情報と参加ソフトウェア製品は、ネットワーク全体に分散された複数のコンピュータに配置することができます。特定のネットワークアプリケーションに参加しているすべてのコンピュータは、ネットワークコンピュータ上にある共通の Network Directory Server を共有しています。
- **ローカルアプリケーション**は、FactoryTalk Local Directory で保持されません。プロジェクト情報はスタンドアロン型のコンピュータ上にあり、同じローカルコンピュータにインストールされたソフトウェア製品でのみ使用できます。ローカルアプリケーションはリモートではアクセスできず、ネットワークアプリケーションとプロジェクト情報を共有できません。

### 2.3.3 FactoryTalk 管理コンソール および FactoryTalk View Studio

RSLinx Enterprise 構成を編集するには、以下のように FactoryTalk 管理コンソールまたは FactoryTalk View Studio を使用してください。

- ネットワーク (分散) アプリケーションでは、FactoryTalk 管理コンソール および FactoryTalk View Studio のいずれかを使用できます。
- ローカルアプリケーションでは、FactoryTalk 管理コンソールを使用してローカルまたはリモートで編集できるか、または FactoryTalk View Studio 内でローカルまたはリモートで編集できます。
- FactoryTalk View Machine Edition (ME) プロジェクトを編集するには、FactoryTalk View ME の特定のニーズのために FactoryTalk View Studio を使用します。

### 2.3.4 設計時間とランタイム

RSLinx Enterprise は、設計時間とランタイムコンポーネントから構成されています。設計時間コンポーネントには、最終的にランタイムコンポーネントで使用されるデバイス、ドライバ、およびショートカットを設定できるユーザインターフェイスがあります。この構成データに基づいて、ランタイムコンポーネントは、ランタイム動作時に受取る読取り / 書込み要求を実行します。

## 2.4 インストールおよび構成のチェックリスト


以下のチェックリストを使用して、インストールと構成作業についてガイドします。

| ✓ ステップ | 説明  | 参照する箇所  |
|--------|---|---|
| 1.     | RSLinx Enterpris 入門ガイドの理解                                     |   |
| 2.     | システムを計画する。  | FactoryTalk のヘルプの “ Getting started with a FactoryTalk system ”                     |
| 3.     | パーソナルコンピュータが最小ハードウェアとソフトウェア要件を満たしているかを確認する。                   | 3-1 ページの「最小システム要件」  |
| 4.     | FactoryTalk サービスプラットフォームおよび RSLinx Enterprise をインストールする。      | 3-2 ページの「RSLinx Enterprise のインストール」   |
| 5.     | FactoryTalk セキュリティを構成する。                                      | FactoryTalk のヘルプの “ Getting started with security ”                                 |
| 6.     | RSLinx Enterprise サーバを追加する。                                   | 4-3 ページの「RSLinx Enterprise の FactoryTalk アプリケーションへの追加」                              |
| 7.     | 汎用の RSLinx Enterprise サーバのプロパティを指定する。                         | 5-1 ページの「汎用サーバプロパティの定義」   |
| 8.     | オプションで、プライマリサーバが故障したときに切り換わる冗長サーバをセットアップする(ネットワークアプリケーションのみ)。 | 5-2 ページの「RSLinx Enterprise を冗長サーバをサポートするように設定(オプション)」                               |
| 9.     | オプションで、デバイスベースのアラームのオプションを設定する。                               | 5-3 ページの「RSLinx Enterprise を FactoryTalk Alarms and Events をサポートするようにセットアップ(オプション)」 |
| 10.    | ドライバとデバイスを追加する。   | 6-1 ページの「ドライバの追加」   |
| 11.    | ターゲットデバイスに位置付けるショートカットを作成する。                                  | 6-3 ページの「ショートカットの作成」  |

## 第3章 RSLinx Enterprise のインストール

この章には、以下の情報を説明しています。

- システム要件
- 初めての RSLinx Enterprise ソフトウェアのインストール
- 既存のインストールの更新

 RSLinx Enterprise をインストールするユーザには、ソフトウェアがインストールされたコンピュータの Windows での管理者権限が必要です。例えば、Windows ドメイン管理者アカウントにはこれらの権限があります。

### 3.1 最小システム要件

RSLinx Enterprise を使用するには、パーソナルコンピュータが以下のハードウェアとソフトウェアの最小要件を満たしている必要があります。

#### 3.1.1 ハードウェア要件

RSLinx Enterprise をインストールするには、以下のハードウェアが必要です。

- 最小：Intel Pentium III, 600MHz, 512MB RAM
- 推奨：Intel Pentium 4, 2GHz 以上、1GB 以上の RAM

#### 3.1.2 ソフトウェア要件

RSLinx Enterprise を実行するには、Microsoft Internet Explorer 6.0 (以降) と、以下のオペレーティングシステムのいずれかが必要です。


- Microsoft Windows Server 2008
- Microsoft Windows Vista Business
- Microsoft Windows XP Professional, Service Pack 2
- Microsoft Windows 2000 Professional, Service Pack 4 with Windows installer 3.0
- Microsoft Windows 2000 Server, Service Pack 4 with Windows installer 3.0
- Microsoft Windows 2003 Server, Service Pack 1, Service Pack 2, Standard Edition
- Microsoft Windows 2003 Server, R2, Standard Edition
- Microsoft Windows 2003 Server, R2, Service Pack 2

### 3.1.3 ソフトウェアの互換性

すべてのロックウェル・ソフトウェアのコンポーネントは、同じ Coordinated Product Release (CPR) バージョンでなければなりません。RSLinx Enterprise v5.20.00 (CPR 9 Service Release 2) を、ロックウェル・オートメーションの CPR 9 または CPR 9 Service Release 2 製品と共にインストールしていることを確認してください。

ロックウェル・ソフトウェア製品の CPR バージョンをチェックするには、**Start Settings Control Panel Add or Remove Programs** を順に選択してます。製品名の次に CPR バージョン番号が示されます (例: RSLinx Enterprise (CPR 9 Service Release 2))。

## 3.2 RSLinx Enterprise のインストール

 RSLinx Enterprise をインストールするユーザには、ソフトウェアがインストールされたコンピュータの Windows での管理者権限が必要です。例えば、Windows ドメイン管理者アカウントにはこれらの権限があります。

以下の手順に従って、RSLinx Enterprise をインストールしてください。

1. FactoryTalk Services CD を CD-ROM ドライブに差し込みます。

| 自動実行 | 手順  |
|------|---|
| 有効   | Setup プログラムが自動的に起動し、FactoryTalk Services opening 画面が表示されます。ステップ 2 に進みます。  |
| 無効   | <ol style="list-style-type: none"> <li>a. <b>Start</b> をクリックしてから、<b>Run</b> をクリックします。Run ダイアログボックスが表示されます。</li> <li>b. Open 制御では、<code>x:\setup</code> を入力してから、<b>OK</b> をクリックします (この場合 <code>x</code> は FactoryTalk Services CD が差し込まれたドライブを示す文字)。FactoryTalk Services opening 画面が表示されます。</li> </ol> |

2. **Install RSLinx Enterprise** を選択します。
3. 画面に表示される手順を行なってください。
  - **View RSLinx Enterprise Release Notes** : リリースノートには本書が発行された以後に有効になった最新情報が記載されています。インストールを継続する前に、インストールする製品のリリースノートをお読みください。
  - **View How to Activate Rockwell Software Products** : このオプションは、RSLinx Enterprise をアクティブにするために知って行なうべき作業を表示します。アクティベーションについては、付録 A を参照してください。

- **View RSLinx Enterprise Getting Results Guide** : この選択は、検索可能な PDF ファイルで RSLinx Enterprise 入門ガイドを提供します。RSLinx Enterprise で作業する前にこのガイドを読んで理解してください。

- **Install FactoryTalk Services Platform** : このステップをクリックして、FactoryTalk サービスプラットフォームのためのインストールウィザードを起動します。FactoryTalk Services Platform CPR 9 Service Release 1 は、RSLinx Enterprise をインストールする前にコンピュータにインストールする必要があります。

このインストールには、RSLinx Enterprise などの FactoryTalk 対応アプリケーションを構成および管理できるスタンドアロンツールである FactoryTalk 管理コンソールが含まれています。FactoryTalk および FactoryTalk 管理コンソールについては、FactoryTalk のヘルプを参照してください。



他の CPR 9 Service Release 1 FactoryTalk Services 対応製品がすでにインストールされている場合は、コンピュータにすでに FactoryTalk サービスプラットフォームがインストールされています。詳細は、3-4 ページの「コンピュータを再起動します。」を参照してください。

- **Install FactoryTalkActivation Client** : このステップで、FactoryTalk アクティベーション・クライアント・ソフトウェアをインストールします。RSLinx Enterprise をアクティブにするために FactoryTalk アクティベーションを使用しないときは（つまり、このリリースでは既存の EvRSI アクティベーションを使用する）、このステップを飛ばします。ローカルアプリケーション（例：FactoryTalk View Machine Edition または FactoryTalk View Site Edition Local 製品）にはアクティベーションが必要ないことに注意してください。

- **Install RSLinx Enterprise** : このステップをクリックして、RSLinx Enterprise のためのインストールウィザードを起動します。インストールごとに以下を行なうように求められます。

- ライセンス契約の受諾

- ユーザ名と組織の入力


- セットアップタイプの選択

- **Standard Feature Set Installation to Default Location** : これはデフォルト選択で、C:\Program Files\Rockwell Software\にランタイムと設計時間の両方のコンポーネントをインストールする。

- **Custom Location Selection and/or Custom Feature Selection** : このオプションは、デフォルト以外のディレクトリに RSLinx Enterprise をインストールするときに選択します。

- **Check for Product Updates** : このステップをクリックして、最新製品の更新とロックウェル・オートメーションの Support Knowledgebase へのリンクを提供する Product Updates ページを起動します。
- 4. ソフトウェアのインストールが完了したら、Exit をクリックしてから、FactoryTalk Services CD を CD-ROM ドライブから取り出します。CD-ROM は安全な場所に保管してください。

---

 ロックウェル・ソフトウェア製品をインストールした後にコンピュータを再起動する必要があります。複数の製品をインストールするときは、すべての製品をインストールした後でコンピュータを再起動する必要があります。

---

### 3.3 既存のインストールの更新


RSLinx Enterprise をアップグレードする前に、以下の点に注意してください。

- RSLinx Enterprise をインストールするユーザには、RSLinx Enterprise がインストールされたコンピュータの Windows での管理者権限が必要です。例えば、Windows ドメイン管理者アカウントにはこれらの権限がありません。
- RSLinx Enterprise v5.20.00 (CPR 9 Service Release 2) は、ロックウェル・オートメーションの最新の Coordinated Product Release (CPR 9) のコンポーネントです。RSLinx Enterprise v5.20.00 (CPR 9 Service Release 2) を、ロックウェル・オートメーションの CPR 9 または CPR 9 Service Release 2 製品と共にインストールしていることを確認してください。

以下の手順に従って、ソフトウェアを前のバージョンからアップグレードしてください。

1. RSLinx Enterprise の現在のバージョンを停止します。
2. RSLinx Enterprise v5.20.00 (CPR 9 Service Release 2) 製品 CD を差し込みます。画面に示されるようにインストール手順を実行します。
3. コンピュータを再起動します。

---

 ロックウェル・ソフトウェア製品をインストールした後にコンピュータを再起動する必要があります。複数の製品をインストールするときは、すべての製品をインストールした後でコンピュータを再起動する必要があります。

---

### 3.3.1 FactoryTalk 対応製品がすでにインストールされているシステムの更新

RSLinx Enterprise を他の FactoryTalk 対応製品が現在インストールされているシステムにインストールする場合は、すべての製品が同じ CPR 番号であることを最初に確認する必要があります。Add or Remove Programs を使用してこれを行なうことができます。

Start Settings Control Panel Add or Remove Programs

CPR 番号は製品に記載されています。いずれかの製品が古いリリースの場合は、製品をアンインストールして（最後に FactoryTalk サービスプラットフォームをアンインストールする）、コンピュータを再起動してから、インストール CD を使用して適切なリリースバージョンをインストールする必要があります。

CPR バージョンに互換性がある場合は、以下の手順に従って FactoryTalk 管理コンソールをインストールできるかを確認します。

1. Start Settings Control Panel Add or Remove Programs を順に選択します。
2. Add or Remove Programs 画面から **FactoryTalk Services Platform** を選択します。
3. **Change** を選択して、インストールウィザードを起動します。
4. Program Maintenance 画面から **Modify** を選択します。
5. FactoryTalk 管理コンソールのインストールステータスを確認します。まだチェックされていないときは、インストール用のボックスをチェックします。
6. **Install** をクリックします。
7. インストールが完了したら、**Finish** をクリックします。



## 第4章

# RSLinx Enterprise の起動およびユーザ インターフェイスの作業

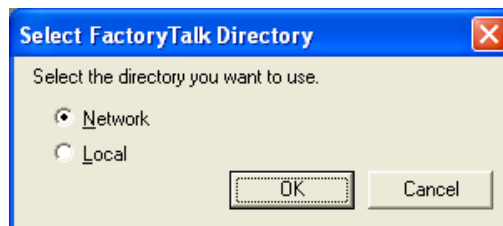
この章には、以下の情報を説明しています。

- FactoryTalk 管理コンソールの起動
- FactoryTalk 管理コンソールユーザ・インターフェイス・コンポーネント
- RSLinx Enterprise の FactoryTalk アプリケーションへの追加
- RSLinx Enterprise Communication Setup エディタでの作業

### 4.1 FactoryTalk 管理コンソールの起動

RSLinx Enterprise は、Factory Talk 管理コンソール内から起動されます。以下の手順に従って、FactoryTalk 管理コンソールを起動してください。

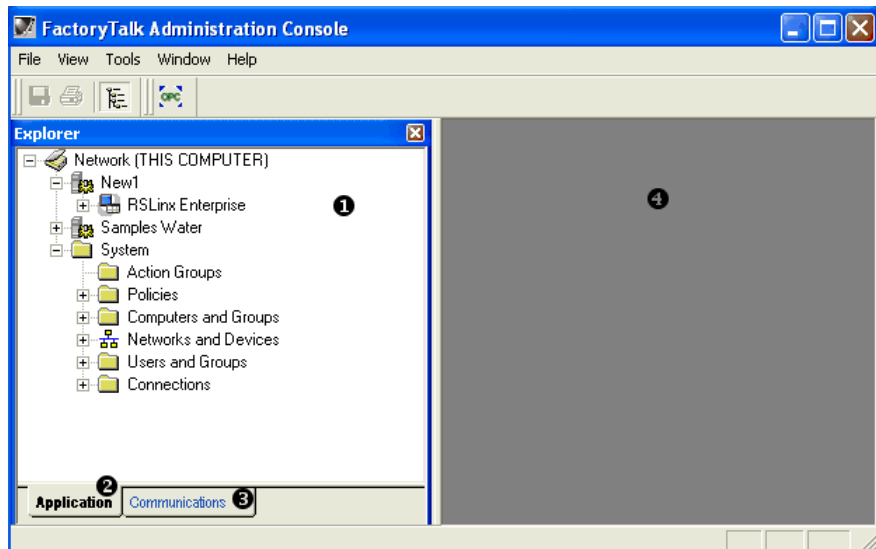
1. Start メニューから、**Programs Rockwell Software FactoryTalk Administration Console** を順に選択します。
2. 使用したい FactoryTalk ディレクトリを選択します。ネットワークアプリケーションとローカルアプリケーションについては、第2章を参照してください。



*注：セキュリティ設定によっては、アプリケーションを開くためにユーザ名とパスワードを入力する必要があります。詳細は、FactoryTalk のヘルプを参照してください。*

## 4.2 FactoryTalk 管理コンソールユーザ・インターフェイス・コンポーネント

FactoryTalk 管理コンソールは、以下の基本的なユーザ・インターフェイス・コンポーネントから構成されています。

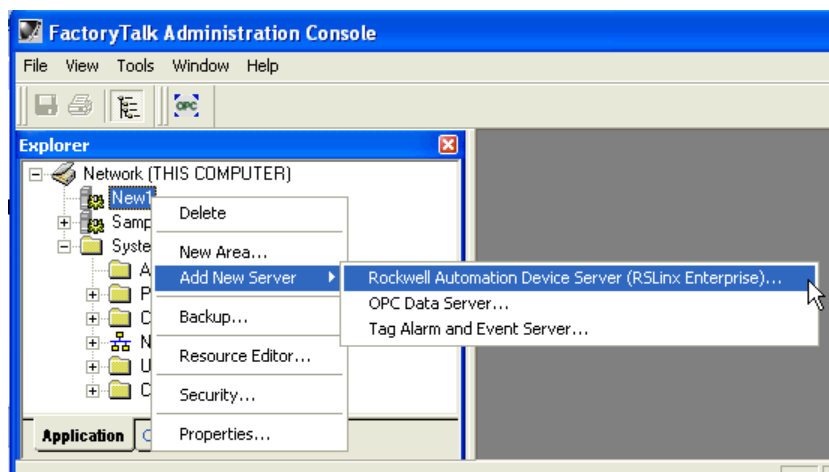


| 項目 | 説明   |
|----|--|
| 1  | <b>Explorer 領域</b> には、Application タブおよび Communications タブがある。  |
| 2  | <b>Application タブ</b> は作成時にツリー形式でアプリケーションを表示する。アプリケーションツリーによって、アプリケーションを確認し管理することができるようになる。FactoryTalk 管理コンソールを使用して、FactoryTalk アプリケーション内に RSLinx Enterprise などのデータサーバへの参照を追加できる。<br>FactoryTalk 管理コンソールでのアプリケーションの作成については、FactoryTalk 管理コンソールのヘルプを参照してください。 |
| 3  | <b>Communications タブ</b> には、現在使用しているコンピュータから表示される。これによって、(RSLinx Classic の RSWho のように) ネットワークでアクセス可能なデバイスをブラウズし、これをツリー形式で表示できるようになる。ツリーは、ネットワーク、シャーシ、デバイス、およびサービスで構成される。このタブのステータスバーは、コンピュータがオンラインまたはオフラインであるか、およびブラウズ中かそうでないのかが示される。                        |
| 4  | <b>作業領域</b> は、FactoryTalk 管理コンソールを起動したときは空の領域です。Explorer 領域から RSLinx Enterprise を起動すると、作業領域に Communication Setup エディタが表示される。   |

### 4.3 RSLinx Enterprise の FactoryTalk アプリケーションへの追加

インストール後、RSLinx Enterprise の使用を開始するには、それを FactoryTalk ディレクトリに作成された FactoryTalk アプリケーションに最初に追加する必要があります。以下の手順に従って、RSLinx Enterprise をアプリケーションに追加してください。

1. Explorer ウィンドウで、マウスカーソルを RSLinx Enterprise サーバを追加したい領域またはアプリケーションに位置付けます。
2. 領域またはアプリケーションを右クリックして、コンテキストメニューで Add New Server に位置付けてから、**Rockwell Automation Device Server (RSLinx Enterprise)** を選択します。



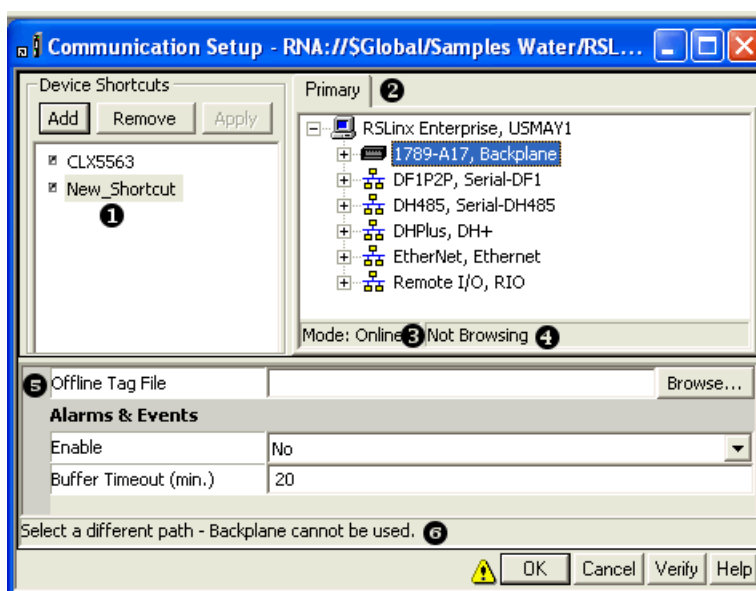
3. RSLinx Enterprise Server Properties タブで、サーバプロパティを設定します。これらのタブについては、第 5 章に説明します。
4. OK をクリックして、RSLinx Enterprise サーバをアプリケーションに追加します。


## 4.4 RSLinx Enterprise Communication Setup エディタでの作業

Communication Setup エディタを使用して、RSLinx Enterprise 構成でドライバを追加、デバイスを追加、ドライバとデバイスプロパティをセットアップ、デバイスショートカットをセットアップできます。

以下の手順に従って、Communication Setup エディタを開いてください。

1. Explorer 領域で、アプリケーションツリーの適切なアプリケーションを展開します。
2. RSLinx Enterprise を展開します。
3. **Communication Setup** をダブルクリックします。Communication Setup エディタが作業領域に表示されます。





 動作時にこのデータを修正すると、予期しない結果が起こることがあります。詳細は、ヘルプの “ Making run-time changes in FactoryTalk applications ” を参照してください。

| 項目     | 説明  |
|--------|---|
| 1      | <b>Device Shortcuts</b> 領域は、ショートカットを追加、削除、および修正でき、ショートカットプロパティを選択されたショートカット名に適用できる。ショートカットは、接続するデバイスおよびデバイスに含まれるデータを表す名前です。ショートカットは、通信バスと関連付けられて、アプリケーションはそのデータの場所を認識できる。   |
| 2      | タブには、通信トポロジを表す通信ツリー制御が含まれている。製品によって、以下のタブが表示される。<br><b>FactoryTalk View Site Edition (SE) Local</b> : メインのタブ<br><b>FactoryTalk View Site Edition (SE) Network</b> : メインのタブ、サーバ冗長が選択された場合は 2 番目のタブ。<br>タブを使用して、デバイスとドライバを追加、移動、および修正できる。通信ツリー内のさまざまなノードを右クリックすることによって、メニューオプションが表示される。 |
| 3      | Mode : オンラインまたはオフラインであることを示す。   |
| 4      | ブラウスステータス : RSLinx Enterprise が追加デバイスであるかを判別するために、ネットワークに問い合わせを行なっているかを示す。  |
| 5      | ショートカットプロパティ表は、選択されたショートカットに関連付けられたプロパティを示す。  |
| 6      | ステータスメッセージは、ショートカットの構成に役立つ。   |
| OK     | 変更内容を保存して、Communication Setup エディタを閉じる。   |
| Cancel | 現在の変更を保存することなく、Communication Setup エディタを閉じる。  |
| Verify | 作成したショートカットとそれに関連するステータスメッセージをまとめて表示する。   |
| Help   | ヘルプを表示する。   |

#### 4.4.1 マウスの右クリックと左クリック

| 行ないたいこと                         | 操作内容   |
|---------------------------------|--|
| ショートカットを適用するために通信ツリーのデバイスを選択する。 | デバイスを左クリックする。有効なデバイス選択であると Apply ボタンがアクティブになり、そうでないときはステータスメッセージ (6) が、誤ったデバイス選択であることを通知する。                            |
| ネットワークのブラウズを開始する。               | 通信ツリーのネットワークを左クリックする。ブラウスステータス (4) が、ブラウズ中であることを示す。<br>または<br>ネットワークを右クリックする。コンテキストメニューから <b>Start Browsing</b> を選択する。 |
| ネットワークのブラウズを停止する。               | ネットワークを右クリックする。コンテキストメニューから <b>Stop Browsing</b> を選択する。  |
| プロパティページを表示または編集する。             | デバイスまたはネットワークを右クリックする。コンテキストメニューから <b>Properties</b> を選択する。  |
| コンテキストメニューを表示する。                | 右クリックする。   |

 デバイスのプロパティページを表示するには、右クリックしてプロパティページを表示する前に、デバイスを左クリックして選択しないでください。左クリック操作はショートカットのターゲットを選択するもので、これは強調表示されたショートカットの目指すターゲットである場合とそうでない場合があります。

開発環境での編集がランタイムシステムに悪影響がある場合に注意を促す警告が、FactoryTalk が追加されました。ダイアログボックスで変更が行なわれた場合、以下の警告アイコン  が編集を行なえるコンポーネントの隣に表示されます。このアイコン上にマウスカーソルをあわせると、以下のメッセージが表示されます。

*Modifying this data at run time could cause unexpected results. See Making run-time changes in FactoryTalk Application in the Help.*

(動作時にこのデータを修正すると、予期しない結果が起こることがあります。ヘルプの “ Making run-time changes in FactoryTalk applications ” を参照してください。)

メニュー項目から編集を行なう場合は、メニュー項目をクリックするとメッセージが表示されます。

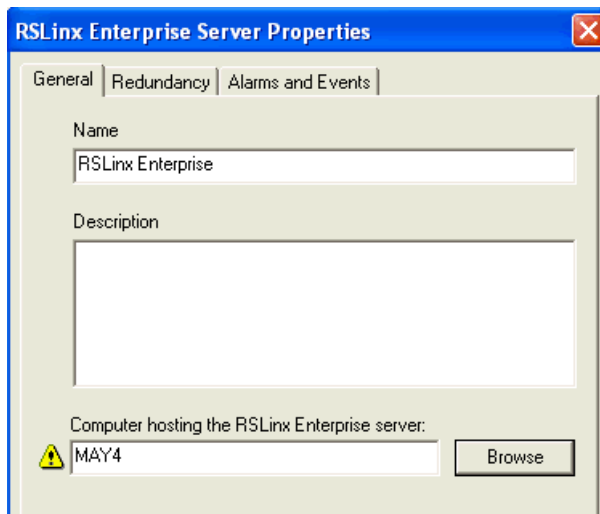
## 第 5 章

# RSLinx Enterprise サーバプロパティの定義

この章には、以下の情報を説明しています。

- 汎用サーバプロパティの定義
- RSLinx Enterprise を冗長サーバをサポートするように設定 (オプション)
- RSLinx Enterprise を FactoryTalk Alarms and Events をサポートするようにセットアップ (オプション)

Communication Setup エディタを起動するには、RSLinx Enterprise サーバアイコンの下の Explorer から **Communication Setup** をダブルクリックします。RSLinx Enterprise Server Properties ダイアログが表示されます。



### 5.1 汎用サーバプロパティの定義

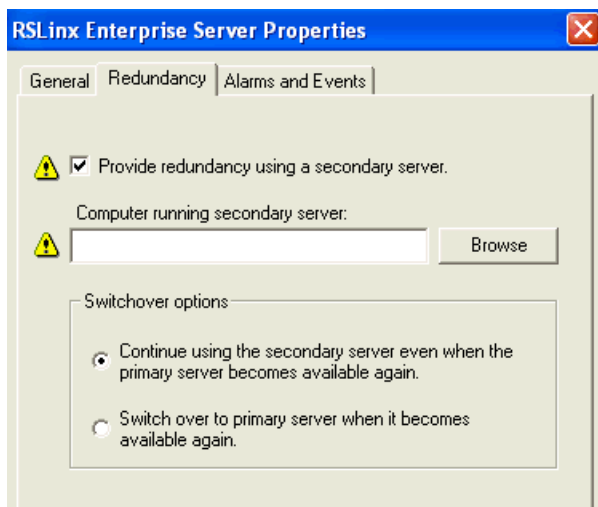
ローカルとネットワークの両方のアプリケーションでは、RSLinx Enterprise Server Properties ダイアログの General タブでサーバプロパティを指定する必要があります。

- サーバ名は RSLinx Enterprise で、サーバの作成後は変更できません。
- Description フィールドを使用して、コンポーネントの位置を説明、故障時に連絡する人または番号を認識する、または変更またはバージョン情報を記録できます。

- ローカルアプリケーションでは、RSLinx Enterprise サーバのホストになるコンピュータはデフォルトではローカルホストであり、変更できません。ネットワークアプリケーションでは、**Browse** をクリックするか、またはコンピュータ名を入力して RSLinx Enterprise サーバがあるコンピュータを認識します。

冗長サーバをセットアップするときは、Redundancy タブをクリックします。そうでなければ、**Apply** をクリックしてサーバ情報を保存してから、**OK** をクリックしてダイアログを閉じます。

## 5.2 RSLinx Enterprise を冗長サーバをサポートするように設定 (オプション)



RSLinx Enterprise Server Properties ダイアログボックスの Redundancy タブでは、プライマリ RSLinx Enterprise サーバのサービスが失われたときに切り換わるセカンダリ (冗長) サーバをセットアップできます。

セカンダリサーバは、プライマリサーバのように同じコンピュータでホストにできません。ネットワーク (分散) アプリケーションのみの冗長データサーバをセットアップできます。冗長サーバについては、RSLinx Enterprise のヘルプを参照してください。

以下の手順に従って、Redundancy タブで冗長サーバをセットアップしてください。

1. **Provide redundancy using a secondary server** を選択します。
2. セカンダリサーバが稼動しているコンピュータの名前を入力するか、または **Browse** をクリックしてからコンピュータに位置付けて選択します。
3. スイッチオーバーオプションを選択します。

FactoryTalk Alarms and Events サポートをセットアップするときは、Alarms and Events タブをクリックします。そうでなければ、Apply をクリックしてサーバ情報を保存してから、OK をクリックしてダイアログを閉じます。

### 5.3 RSLinx Enterprise を FactoryTalk Alarms and Events をサポートするようにセットアップ (オプション)

RSLinx Enterprise Server Properties ダイアログの Alarms and Events タブによって、選択されたサーバを FactoryTalk Alarm and Event デバイススペースのアラームモニタするように構成できます。FactoryTalk Alarms and Events サポートをセットアップする前に、RSLinx Enterprise のヘルプを参照するか、プロパティページのヘルプをクリックします。

General | Redundancy | Alarms and Events

Enable alarm and event support

Priorities

Enable server-assigned priorities

| Priority | Severity Range |      |
|----------|----------------|------|
|          | Low            | High |
| Urgent   | 751            | 1000 |
| High     | 501            | 750  |
| Medium   | 251            | 500  |
| Low      | 1              | 250  |

Alarm and Event History

Enable history

Database definition:

Computer name:

Database name:

Cache file path:

Log language:

OK Cancel Apply Help



## 第 6 章 構成の作成

この章には、以下の情報を説明しています。

- ドライバの追加
- デバイスの追加
- ショートカットの作成

RSLinx Enterprise との動作を開始するには、RSLinx Enterprise データサーバを FactoryTalk ディレクトリに追加する必要があります。この手順については第 4 章に説明しています。RSLinx Enterprise を追加して、プロパティを構成したら、Communication Setup エディタを使用して、ドライバを追加、ドライバとデバイスのプロパティをセットアップ、およびデバイスアヨーとカットをセットアップすることができます。


Communication Setup エディタを起動するには、RSLinx Enterprise のデータプロバイダの下の Explorer から **Communication Setup** をダブルクリックします。

### 6.1 ドライバの追加

ドライバは、ネットワークインターフェイス (コンピュータを Ethernet ネットワークに接続するインターフェイスなど) と相互作用し、インターフェイスが取付けられたネットワーク上で通信パケットの交換を管理するソフトウェアです。サポートされているドライバについては、RSLinx Enterprise のヘルプを参照してください。

#### 6.1.1 Ethernet ネットワークで稼働している場合

Ethernet ネットワーク上で稼働しているときにドライバを追加するには、示されるネットワーク (Ethernet) を右クリックしてから、ドライバをデバイスに装着するために **Start Browsing** を選択します。

-  一部の Ethernet デバイスでは、Ethernet で RSLinx Enterprise に使用されるプロトコルをブラウズする機能をサポートしていません。ブラウズ中に表示されるはずのデバイスが表示されない場合は、ネットワークを右クリックしてから **Add Device** を選択することでデバイスをワークステーションの Ethernet ネットワークに手動で追加します。

#### 6.1.2 Ethernet 以外のネットワークで稼働している場合

Ethernet 以外のネットワークで稼働しているときにドライバを追加するには、このワークステーションに示されるデバイスを右クリックしてから、**Add Driver** を選択します。

## 6.2 デバイスの追加

ネットワークをブラウズするか、またはデバイスを手動で追加することによって、デバイスを追加できます。

### 6.2.1 ブラウズによるデバイスの自動追加

RSLinx Enterprise 用の潜在的なデバイスターゲットのリストを、オンラインブラウズ中に集めることができます。ブラウズサイクル中に、RSLinx Enterprise はネットワークアドレスをスキャンして、存在するデバイスを判断し、それらをツリー形式で表示します。ディスプレイは、最近のブラウズサイクルで検出されたデバイスのセットを示します。

ブラウズ中にデバイスが検出できなかった場合は、デバイスが前に検出されたかに関係なくディスプレイに表示されません。

Ethernet ネットワークで稼働している場合は、示されるネットワーク (Ethernet) を右クリックしてブラウズを開始します。ネットワークには、自動的にデバイスが装着されます。

#### 仮想バックプレーンのブラウズ

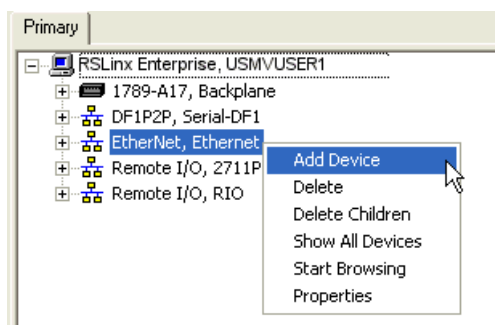
ユーザインターフェイスの仮想バックプレーンを選択している場合は、RSLinx Enterprise は存在するデバイスを自動的に検出することができません。これは、デバイスが SoftLogix Chassis Monitor または RSLinx Classic などの個別のソフトウェアパッケージに追加された場合によく起こります。

RSLinx Enterprise ユーザインターフェイスに示されないデバイスが仮想バックプレーンに存在していると考えられるときは、仮想バックプレーンを右クリックしてから **Start Browsing** または **Show All Devices** を選択するとこれらのデバイスを表示できます。デバイスが表示されない場合でも保存された構成データが失われていないことに注意してください。

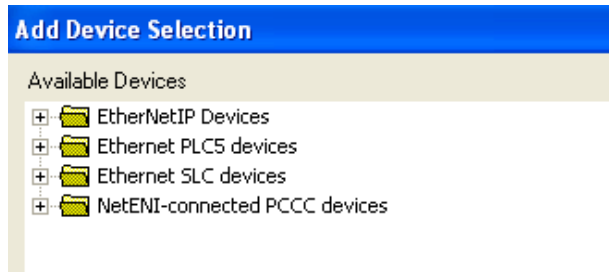
### 6.2.2 デバイスの手動追加

以下の手順に従って、デバイスをワークステーションのネットワークに手動で追加してください。

1. ネットワークまたはドライバを右クリックしてから、**Add Device** を選択します。



選択したネットワークにのみ適用する Available Devices のリストが表示されます。



2. 追加したいデバイスを選択して、**OK** をクリックします。デバイスは通信ツリーのドライバまたはネットワークの下に追加されます。アプリケーションに特定のデバイスバージョンが必要でない場合に限り、そのデバイスの最新リビジョンを選択します。

デバイスリストのデバイスリビジョンについては、ヘルプの「よくある質問とそれに対する回答」のドライバ、デバイス、およびショートカットのセクションを参照してください。ドライバおよびデバイスの追加および構成方法については、ヘルプも参照してください。

### 6.3 ショートカットの作成

アプリケーションでは、ネットワーク上のデバイスと通信するために構成ファイルを使用します。このファイルには少なくとも1つのショートカットが含まれており、それはデバイスを接続したい名前とデバイスが含まれたデータです。ショートカットに関連付けられた通信バスは、データが存在するアプリケーションを示します。

ここには、デバイスショートカットについての重要な側面を示します。

- アプリケーションがアクセスする必要があるデバイスごとにショートカットを構成する必要があります。接続されたデバイスは、データをアプリケーションに提供できなければなりません。
- ショートカットは、RSLinx Enterprise サーバ自体に関連付けるかわりに事前に FactoryTalk アプリケーションに保存されています。
- ショートカットは、Communication Setup エディタの Device Shortcuts 領域の Shortcut エディタを使用して、追加、削除、または修正できます。

以下の手順に従って、ショートカットを作成してください。

1. Communication Setup エディタの Device Shortcuts 領域で、**Add** をクリックします。デフォルトのショートカット名 "New\_Shortcut" が作成されます。
2. ショートカットの名前を変更したいときは、この時点で新しい名前を入力できます。

ショートカット名を作成するときは、以下に注意してください。

- データ ( タグ ) が存在するコントローラの名前を使用します。
  - この FactoryTalk View アプリケーションで名前は固有であることを確認してください。
  - 以下の文字は使用できません : . ( ピリオド ), ], [, %, /.
  - ショートカット名はできるだけ短くしてください ( 名前は 255 文字未満でなければならない )。
  - RSLinx Enterprise ショートカットと RSLinx Classic トピックスと同じ名前を使用してはなりません。ショートカットがトピックスと同じ名前である場合は、タグブラウズ中にそれらの 1 つのためにタグは表示されません。
3. 通信ツリー内で、このショートカットのためにアクセスしたいデータを含むデバイスを選択して ( デバイス上で左クリックして )、**Apply** をクリックします。ダイアログに変更内容の確認が表示されます。
  4. **オプション** : Properties Table にファイルのパスと名前を入力するか、または **Browse...** をクリックしてからファイルをブラウズすることでオフライン・タグ・ファイル (Offline Tag File) の使用を選択することもできます。Device Shortcuts 領域で **Apply** をクリックします。オフライン・タグ・ファイルは、タグデータを含む ControlLogix プロジェクトファイル (.acd) です。コントローラがオンラインではないときにアプリケーションを設計するときは、タグをブラウズするためにこのファイルを使用できます。
 

*注 : ControlLogix プログラムファイル (.acd) は、ネットワーク位置ではなくローカルコンピュータに存在していなければなりません。オフラインファイルは、ショートカットに関連付けられたすべての RSLinx Enterprise サーバマシンの指定されたディレクトリになければなりません。*
  5. **オプション** : Alarms and Events support を、Shortcut Properties Table のメニューから **Yes** を選択してこのショートカット用に有効にします。ショートカット用に Alarms and Events サポートを有効にする前に、ヘルプを参照してください。
  6. 構成した各ショートカットに関連するステータスメッセージをを確認するには、Communication Setup エディタで **Verify** をクリックします。
  7. ショートカットの追加を完了するときは、**OK** をクリックして Communication Setup エディタを閉じます。ショートカットは、OK をクリックしてこのダイアログを閉じるまで保存されません。変更内容を確認するためのダイアログが表示されます

# 第7章 トラブルシューティング

この章には、以下の情報を説明しています。

- 問題があるときの最初のチェック内容
- RSLinx Enterprise 用のトラブルシューティングツール
- よくある質問に対する回答
- テクニカルサポートへの連絡方法

## 7.1 問題があるときの最初のチェック内容

PC は最小ハードウェアとソフトウェア要件を満たしていますか？これらの要件については第3章を参照してください。

FactoryTalk 管理コンソールが PC にインストールされているか？以下の作業を行なって、FactoryTalk 管理コンソールをインストールしていることを確認してください。

1. **Start Settings Control Panel Add or Remove Programs** を順に選択します。
2. **Add** または **Remove Programs** 画面から **FactoryTalk Automation Platform** を選択します
3. **Change** を選択して、インストールウィザードを起動します。
4. **Program Maintenance** 画面から **Modify** を選択します。
5. FactoryTalk 管理コンソールのインストールステータスを確認します。まだ選択していない場合は、それをインストールすることを選択します。
6. **Install** をクリックします。
7. インストールが完了したら、**Finish** をクリックします。

## 7.2 RSLinx Enterprise 用のトラブルシューティングツール

RSLinx Enterprise は、以下が起こったときに問題をトラブルシューティングできる診断ツールを提供します。

- FactoryTalk 診断イベントログ
- 事前定義された項目

## 7.2.1 FactoryTalk 診断イベントログ

FactoryTalk 対応オートメーションシステムでは、ロックウェル・ソフトウェア製品はシステムのアクティビティをモニタして、詳細な診断メッセージを生成します。同時に、FactoryTalk 診断は、分散システム内のすべての参加製品からアクティビティ、警告、エラー、および監査メッセージを収集して、各コンピュータのローカルログ(イベントログともいう)に送ります。

問題が発生した場合、原因を判別する際の参考となる、問題に通じるログ内のイベントを調べることができます。または、ログをモニタして潜在的な問題を特定し、問題が発生する前に修正処置を行なうこともできます。

FactoryTalk 診断とイベントログについては、FactoryTalk のヘルプを参照してください。

## 7.2.2 事前定義された項目

事前定義された項目は、診断用のデータ項目として RSLinx Enterprise で使用可能になるカウンタまたは文字列です。これらの事前定義された項目は、RSLinx Enterprise に含まれる情報にアクセスします。事前定義された項目については、RSLinx Enterprise のヘルプを参照してください。

## 7.3 よくある質問に対する回答

### 7.3.1 RSLinx Enterprise のヘルプはどこにありますか？

FactoryTalk 管理コンソールから、**Help Contents FactoryTalk Help Work with RSLinx Enterprise** を順に選択します。このブックが存在しない場合は、RSLinx Enterprise は PC にインストールされていません。インストール手順については、第 3 章を参照してください。

### 7.3.2 Start メニューに RSLinx Enterprises がありません

RSLinx Enterprise は、FactoryTalk 管理コンソールを使用して構成データのすべてを編集するため、スタンドアロンインターフェイスは不要です。FactoryTalk View Studio は RSLinx Enterprise 構成を変更できるため、FactoryTalk View Site Edition および FactoryTalk View Machine Edition のユーザはメインのユーザインターフェイスを残しておく必要はありません。

### 7.3.3 なぜタグをブラウズできないのですか？

FactoryTalk 管理コンソールでのタグブラウズ(つまり、データ項目のオンラインでのブラウズ)をサポートしていません。タグをブラウズしてこれをシステム内のコンポーネントに接続するには、FactoryTalk View Studio または FactoryTalk Transaction Manager タグブラウザを使用する必要があります。

### 7.3.4 なぜ Machine Edition 構成を編集できないのですか？

アプリケーション内の HMI サーバの編集、つまり FactoryTalk View Site Edition Distributed, Site Edition (SE) Local, および Machine Edition (ME) の編集は、FactoryTalk 管理コンソールにはサポートされていません。FactoryTalk 管理コンソールは、アプリケーションの構成と管理を目的としています。SE または ME 構成を編集するには、FactoryTalk Studio を使用する必要があります。

### 7.3.5 有効なアクティベーションがあるかはどのように確認すればよいのでしょうか？

FactoryTalk 診断ログをチェックします。RSLinx Enterprise を起動したときにアクティベーションファイルがシステムで検出されない場合は、情報メッセージがログされます。診断メッセージについては、FactoryTalk のヘルプを参照してください。また、SE ローカル(スタンドアロン)アプリケーションおよび FactoryTalk View ME アプリケーションには、どのようなタイプの RSLinx Enterprise アクティベーションも不要であることを覚えておいてください。FactoryTalk View SE Distributed または FactoryTalk Transaction Manager などの「ネットワーク化」されたアプリケーションには、RSLinx Enterprise アクティベーションが必要です。

### 7.3.6 RSLinx Enterprise と RSLinx Classic を同じコンピュータで実行できますか？

RSLinx Enterprise と RSLinx Classic を同じコンピュータで同時に実行できますが、これら 2 つのアプリケーションの間でリソースの衝突を回避するために意識すべきいくつかの注意事項があります。詳細は、付録 C を参照してください。

## 7.4 テクニカルサポートへの連絡方法

RSLinx Enterprise ソフトウェアのインストールと使用に関する質問は、ロックウェル・オートメーションのカスタマ・サポート・センターで取り扱っています。このセンターは、米国とカナダからの電話の場合、米国の祝日を除く月曜から金曜日の東部時間午前 8 時～午後 5 時で対応しています。

カスタマ・サポート・センターの電話番号 440-646-3434 (北米) で、続いて流れるメッセージに従って電話を操作してください。米国 / カナダ以外の国からの通話の場合は、[support.rockwellautomation.com/contact information](https://support.rockwellautomation.com/contact-information) にアクセスして、各国の電話番号を検索してください。

お電話の際には、ご使用のコンピュータの前で以下の質問について準備をお願いします。

- 製品のシリアルナンバーとバージョン番号  
これは、**Start Settings Control Panel Add or Remove Programs** を順に選択することで確認できます。製品名をクリックしてから、**Click here** をクリックするとサポート情報を見ることができます。
- 使用しているハードウェアのタイプ
- 画面に表示されるエラーまたはメッセージの正確な内容
- 発生した内容の説明と、問題発生時に行っていたこと
- 問題解決のために行なったことの説明

# 付録 A

## RSLinx Enterprise のアクティベーション

ロックウェル・オートメーションの Windows ベースのソフトウェア製品はコピー保護されており、ソフトウェアを実行するにはアクティベーションファイル内にあるアクティベーションキーが必要です。

RSLinx Enterprise Ver. 5.20.00 (CPR 9 Service Release 2) は、以下のアクティベーションツールをサポートしています。

- **FactoryTalk アクティベーション**：新規ユーザの場合は、FactoryTalk アクティベーションを使用してソフトウェアをアクティブにする必要があります。
- **EvRSI アクティベーション**：現在のユーザを CPR 9 Service Release 2 にアップグレードする場合は、アクティベーションはすでにインストールされており、自動的に使用されます。

EvRSI アクティベーションは、将来リリースされる FactoryTalk アクティベーションに置き換わります。EvRSI アクティベーションを使用している場合は、FactoryTalk アクティベーションへのアクティベーションの移植について当社またはテクニカルサポートにお問い合わせください。

米国内のロックウェル・オートメーションのテクニカルサポートについては、(440) 646-3434 に電話してください。

米国外は、以下の Web サイトにアクセスしてください：

<http://www.rockwellautomation.com/locations/>

アクティベーション手順については、製品に同梱された “ How to Activate Rockwell Software Products ” を参照してください。この資料は、FactoryTalk Services インストール CD から見ることもできます。RSLinx Enterprise v5.20.00 (CPR 9 Service Release 2) はフローティング、共通アクティベーションをサポートしていることに注意してください。

アクティベーションプロセス中のこの点についての支援、または詳細は、FactoryTalk アクティベーション Tool ダイアログまたは FactoryTalk Activation Transfer Tool ダイアログにある Help ボタンをクリックするか、または以下のロックウェル・ソフトウェアのアクティベーション用の Web サイトにある Help リンクをクリックします：

<https://licensing.software.rockwell.com>

インターネットに接続できない場合は、アクティベーションファイルは電子メールまたは Fax で配布します。この場合、ロックウェル・オートメーションのテクニカルサポートに連絡くださるようお願いいたします。米国内は (440) 646-3434 にお電話ください。

米国外は、以下の Web サイトにアクセスしてください：

<http://www.rockwellautomation.com/locations/>



# 付録 B

## 高度なトピックス

この付録には、以下の情報を説明しています。

- 仮想バックプレーン
- サポートされているネットワークの経路
- RSLinx Enterprise 構成の移動
- CIP コネクションの管理

### B.1 仮想バックプレーン

仮想バックプレーンは、RSLinx Enterprise と、さまざまなデバイスドライバおよび RSLinx Enterprise サーバ内の他のアプリケーションとの間に接続を提供するドライバサービスです。これによって、サーバに含まれるソフトウェアモジュールおよび通信リソースを、ControlLogix システム内のデバイスと同じように構成および視覚化できるようになります。

例えば、PCICS と PKTCS デバイスドライバの両方を仮想バックプレーンに差し込みます。これらの通信インターフェイスカードのいずれかで受信されたパケットを、ドライバが仮想バックプレーンに差し込まれている他のインターフェイスカードや、SoftLogix5xxx コントローラなど仮想バックプレーンに差し込まれているアプリケーションに、仮想バックプレーンを介してルーティングすることができます。

これは、1756-CNB や 1756-ENBT モジュールを ControlLogix シャーシに取付けることとよく似ています。ENBT で受信されたパケットは、バックプレーンを介して CNB モジュールにルーティングすることができ、またバックプレーンにあるコントローラにルーティングすることができます。

(RSLinx Classic として) RSLinx Enterprise が仮想バックプレーンのスロットを占有することに注意してください。つまり、バックプレーンで送信されるパケットのソース (送信元) にも宛先にもなることができます。

このシャーシのようなモデルは、最小限の形で PanelView Plus プラットフォームに引き継がれます。ControlNet サポートの場合は、これらのプラットフォームは 2 スロットの仮想バックプレーンに実装されます。この場合、RSLinx Enterprise が 1 つのスロット (スロット #0) に取付けられ、2711P-RN15S ControlNet スキャナカードが他のスロット (スロット #1) に取付けられます。

## B.2 サポートされているネットワークの経路

PCCC ネットワークの優先経路は、エンドデバイス (例えば、PLC-5 に直接接続された PanelView Plus デバイス、または ControlLogix ラック内の DH+/RIO モジュールに直接接続された Windows コンピュータ内の RSLinx Enterprise データサーバ) に接続するための RSLinx Enterprise エンジン用です。

RSLinx Enterprise によって、複数の CIP (Control and Information Protocol; 例えば、Ethernet または ControlNet) ホップを含むルートを通過する際に使用されるにネットワークタイプを変更することができるようになります。

RSLinx Enterprise は、「オフリンク」ルートをサポートしていません。オフリンクルートは、ベースとなるネットワークプロトコルが変更されるネットワークパスです。つまり、元々 PCCC ルート (例えば、DH+/DH485, DH-RIO) で開始した場合、ControlNet や Ethernet などの CIP ルートを切換えることができません。逆も当てはまります。つまり、CIP ルート (例えば、Ethernet から ControlLogix と DH+ を経由して PLC-5 へというルート) で開始して PCCC ルートに切換えることはできません。

## B.3 RSLinx Enterprise 構成の移動

以降に、ショートカットをアプリケーション間で移動する場合、および選択されたハードウェアのリストをコンピュータ間で移動する場合のガイドラインを示します。ファイルを移動する前に、Windows の Service Control Panel を使用して RSLinx Enterprise サービスをシャットダウンしてください。

### B.3.1 ショートカットの移動

RSLinx Enterprise のあるアプリケーション用に開発されたショートカットを、ショートカットを以下の手順を使用して再入力することなく他の RSLinx アプリケーションのために再利用することができます。これらの手順は、ショートカットのみを移動してドライバ自体を移動するのではないことに注意してください。

#### コンピュータから他にショートカットを移動 : 同じアプリケーション

1. アプリケーションツリーで RSLinx Enterprise サーバを右クリックしてから、**Properties** を選択します。
2. RSLinx Enterprise サーバをホストにしているコンピュータのコンピュータ名を RSLinx Enterprise サーバの新しい場所に変更します。
3. この手順によって RSLinx Enterprise サーバの参照が変更されることを通知する警告が表示されます。パスが正しく設定されていない可能性があるため、ショートカットを再適用する必要があります。ショートカット名のみ保持されます。ダイアログに示される手順に従ってください。

## 同じコンピュータでショートカットを移動：異なるアプリケーション

1. FactoryTalk ディレクトリサーバがあるコンピュータを認識します。
2. FactoryTalk ディレクトリ・サーバ・コンピュータで、以下に存在する shortcuts.xml ファイルに位置付けます。

C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Rockwell\RNAServer\Global\RnaStore\*your\_application\_name\any\_area\_or\_sub\_areas\_you\_have\your\_RSLink\_Enterprise\_server\_name*

(これは、Documents and settings の場所を変更せず、Windows を C:\ ドライブにインストールしていると仮定しています。)

*Your\_application\_name* はアプリケーションの名前で、使用している場合は、アプリケーション内は領域とサブ領域用のフォルダとサブフォルダです。

*Any\_area\_or\_sub\_areas\_you\_have* は、同じ名前のファイルディレクトリに一致します。

*Your\_RSLink\_Enterprise\_server\_name* は、アプリケーションの RSLink Enterprise データサーバの名前に一致します ( デフォルトは RSLink Enterprise)。

3. shortcuts.xml ファイルを新しいアプリケーションのあるパスに移動します。すべてのショートカットの NAMES がそこに移動します。

例えば、

C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Rockwell\RNAServer\Global\RnaStore\*your\_NEW\_application\_name\any\_area\_or\_sub\_areas\_you\_have\your\_RSLink\_Enterprise\_server\_name*

4. ショートカットごとに、エンドデバイスへのパスを再適用する必要があります。

この方法は、ローカルアプリケーション ( ローカルアプリケーションは「ローカル」FactoryTalk ディレクトリサーバが稼動している常にコンピュータを使用することに注意が必要 ) 間でショートカットを移動する場合と、ローカルとネットワークアプリケーション間でショートカットを移動する場合に使用します。

ローカルショートカット用のパスは、以下のようになります。

C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Rockwell\RNAServer\**Local**\RnaStore\*your\_application\_name\_here\your\_RSLink\_Enterprise\_server\_name*

### あるコンピュータから他にショートカットを移動：異なるアプリケーション

コンピュータ間およびアプリケーション間でショートカットを移動するには、上述した FactoryTalk ディレクトリサーバと同じ手順に従ってください。FactoryTalk ディレクトリサーバには、各アプリケーションと各 RSLinx Enterprise サーバ用のディレクトリがあることに注意してください。

### あるコンピュータから他にショートカットを移動：異なる FactoryTalk ディレクトリ

異なる FactoryTalk ディレクトリであってもコンピュータ間でショートカットを移動するには、上述した FactoryTalk ディレクトリサーバと同じ手順に従ってください。FactoryTalk ディレクトリサーバには各アプリケーションと各 RSLinx Enterprise サーバ用のディレクトリがあり、アプリケーション間で移動できることに注意してください。

ショートカット名はコピーできますが、関連するパスはコピーされないののでショートカットごとに再適用する必要があることに注意してください。

### 物理的なレイアウト ( ドライバおよびデバイス ) の移動

同じ RSLinx Enterprise ホストコンピュータから RSLinx Enterprise データサービスを使用するアプリケーションでは、必ず同じ物理的なハードウェア構成 (例えば、ドライバ、デバイスなど) を共有します。この場合、あるアプリケーションから他にハードウェア構成を移動する必要はありません。

### あるコンピュータから他に移動



**注意：**RSLinx Enterprise および RSLinxNg.xml ファイルの移動に関して詳しく資格のあるかたのみが、ここで説明する手順を実行してください。これらの結果には次のようなものがあります。

- ドライバの不一致 ( アドレスなどドライバ構成が異なる )
- 通信インターフェイスの不一致 ( 不適切な再構成を行なったカードなど )
- トポロジの不一致 ( サブネットを含む )

詳細は、ロックウェル・オートメーションのテクニカルサポートまでご連絡ください。



この手順は、一般的に以下の理由で使用されます。

- 類似のプロセスラインにほぼ同一の制御システムがあり、各ラインにある RSLinx Enterprise ホストコンピュータを複製するために、同じハードウェア構成をコピーする場合

または

- 同じ制御システムにほぼ同一のワークステーション (RSLinx Enterprise ホスト) があり、それぞれ同じネットワークパースペクティブがあり、同じハードウェア構成が各ワークステーションで必要な場合

これらのシナリオについて以下の手順を使用することで、次のことが可能になります。

- I/O 構成のコピー
  - ユーザに割付られたデバイス名の損失防止
  - ソースコンピュータからコピーされたアプリケーションのショートカットの再適用が不要
1. ソースとターゲットの両方のコンピュータ上で Windows の Service Control Panel を使用して、RSLinx Enterprise サービスをシャットダウンします。
    -  ロックウェル・オートメーションのアプリケーションがこのサービスを使用しようとする、RSLinx Enterprise は再起動します。RSLinx Enterprise を使用するロックウェル・オートメーションのアプリケーションを停止またはシャットダウンしてから先に進む必要があります。これによって、構成ファイルの移動中にサービスが自動的に開始するのを防ぎます。
  2. Windows の Explorer を使用して、ディレクトリ C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Rockwell\RSLinx Enterprise にある RSLinxNG.xml ファイルを検索します。(これは、Documents and settings の場所を変更せず、Windows を C:\ ドライブにインストールしていると仮定しています)。
  3. RSLinxNG.xml をソースコンピュータからターゲットコンピュータにコピーして、RSLinx Enterprise のホストであるコンピュータを再起動します。これによって、ソースコンピュータのソフトウェア構成の正確なコピーが作成されます。
-  RSLinx Enterprise の物理的な構成 (RSLinxNG.xml) を変更すると、既存のアプリケーションショートカットの割付けが無効になる可能性があります。同じホストワークステーションにある RSLinx Enterprise サービスを使用するすべてのアプリケーション内のすべてのショートカット割付けをチェックして、正しいデバイスが割付けられていることを確認してください。

### B.3.2 CIP コネクションの管理

CPR 9 Service Release 2 以前では、デフォルトでは、RSLinx Enterprise は Logix コントローラに対して最大 5 つの CIP コネクションを開きました。このうち 4 つは読取り操作で、1 つが書込み操作です。システム構成によっては、コントローラまたはブリッジモジュールの最大コネクションリソースにかなり早く達する場合があります。この場合、クライアントの負荷が変更された場合に問題となる可能性があります (例えば、HMI ターミナルがシステムに導入された場合、システム内の全ターミナルでパフォーマンスが変化することになったり、プログラミングソフトウェアでオンラインとなることができないこともある)。

CPR 9 Service Release 2 の場合は、RSLinx Enterprise が、比較的少数の CIP コネクションをサポートするデバイスをチェックし、読取りコネクションの数を制限します。(書込みコネクションの数は 1 に固定されたまま)。これらのデバイスは以降に説明しています。デフォルトでは、他のすべてのデバイスとブリッジモジュールが、最大 4 つの読取りコネクションと 1 つの書込みコネクションをオープンしています。

#### コネクションの数が制限された Logix コントローラ

以下の Logix コントローラには、構成されているように 1 ~ 4 の読取りコネクションが割付けられ、デフォルトは 1 つの読取りコネクションと 1 つの書込みコネクションです。これは実行時に決定され、異なる場合は RSLinx Enterprise トポロジに指定されたタイプではなく、実際のコントローラに基づいています。

- 1769-L23E-QB1
- 1769-L23-QBFC1
- 17-69-L23E-QBFC1

#### コネクションの数が制限された CIP ブリッジモジュール

以下の通信ブリッジモジュールには、構成されているように 1 ~ 4 の読取りコネクションが割付けられており、デフォルトでは 1 つの読取りコネクションと 1 つの書込みコネクションです。これは RSLinx Enterprise トポロジに基づいて決定され、ターゲットコントローラに最も近いブリッジモジュールのみがチェックされます。

- 1756-DHRIO
- 1756-DHRIO
- 1761-NET-ENI

### B.3.3 事前定義された項目を使用して使用している CIP コネクション数を求める

特定のパスで RSLinx Enterprise が使用している CIP コネクション数を決定するには、パスを使用してショートカットを作成し、@ConnectionsActive 事前定義された項目にある値をチェックします。事前定義された項目については、RSLinx Enterprise のヘルプを参照してください。

### B.3.4 FactoryTalk 診断を使用する CIP コネクションの追跡および トラブルシューティング

#### FactoryTalk 診断

この機能をサポートするために、以下の FactoryTalk 診断メッセージを使用されます。

- CLX データプロバイダが起動するときに、  
I\_CLXDP\_STARTED\_ON\_ROUTE がログされます。
- データプロバイダが開こうとする読取りコネクションの最大数を示す  
ために、I\_CLXDP\_MAX\_READ\_CONNECTIONS がログされます。

FactoryTalk 診断については、FactoryTalk のヘルプを参照してください。

### B.3.5 CIP コネクションの割当ての変更

レジストリファイルまたは RSLinxNG.xml ファイルの構成パラメータは、デフォルト値を上書きするため使用できます。コネクション割当ての手動変更については、Knowledgebase Answer ID 39366 を参照してください。



# 付録 C

## RSLinx Enterprise と RSLinx Classic の使用

RSLinx Enterprise および RSLinx Classic は、同じコンピュータで同時に実行できます。これは、RSLogix 5, RSLogix 500, および RSLogix 5000 ソフトウェア (RSLinx Classic が必要) を使用してアプリケーションで使用するためにプログラムを作成または編集する必要があり、1 台のコンピュータのみを使用して行なう必要がある場合の、共通 セットアップです。

### C.1 Vista および Windows 2008 オペレーティングシステム

RSLinx Enterprise 構成に以下が含まれている場合は

#### C.1.1 デュアルチャネル 1784-PKTX(D) ドライバ

CPR 9 SR 2 では、RSLinx Enterprise と RSLinx Classic の両方は同じ 1784-PKTX(D) ドライバをインストールして使用します。RSLinx Enterprise は最初のチャネル (デフォルトで割付けられており、変更できない) を使用します。RSLinx Classic は 2 番目のチャネルを使用します。

Vista または Windows 2008 で稼動していて、RSLinx Enterprise または RSLinx Classic 構成にデュアルチャネル 1784-PKTX(D) ドライバが含まれている場合は、RSLinx Enterprise と RSLinx Classic の両方のためにドライバを構成します。

この手順については、ヘルプの “Configure 1784-PKTX(D) driver for RSLinx Enterprise and RSLinx Classic” を参照してください。

*注：これはデュアルチャネル 1784-PKTX(D) ドライバにのみ適用し、シングルチャネル 1784-PKTX ドライバは一度に 1 つの RSLinx 製品でのみ構成できます。*


### C.2 すべてのサポートされるオペレーティングシステム

RSLinx Enterprise 構成に以下が含まれている場合は

#### C.2.1 1784-PKTX ドライバ

RSLinx Enterprise 構成に 1784-PKTX ドライバが含まれていて、同じドライバと通信するために RSLinx Classic が必要な場合は、RSLinx Enterprise 内で RSLinx Classic とドライバを共有する必要があります。

この手順については、ヘルプの “Sharing an RSLinx Enterprise driver with RSLinx Classic” を参照してください。

 ヒント：Vista および Windows XP オペレーティングシステムにこの手順を使用できますが、前の手順が推奨する方法です。

### C.2.2 シリアル DF1 ドライバ (RS232 DF1 デバイス)

RSLinx Enterprise 構成に Serial-DF1 ドライバ (RS232 DF1 デバイス) が含まれていて、その同じドライバと通信するために RSLinx Classic が必要な場合は、RSLinx Enterprise は RSLinx Classic とドライバを共有する必要があります。

この手順については、ヘルプの “ Sharing an RSLinx Enterprise driver with RSLinx Classic ” を参照してください。

### C.2.3 1784-PCIC(S) ドライバ

RSLinx Enterprise 構成に 1784-PCIC(S) ドライバが含まれている場合は、RSLinx Enterprise でドライバを構成してから、仮想バックプレーンを RSLinx Classic に追加します。

仮想バックプレーンは、RSLinx Classic と RSLinx Enterprise との間で共有可能なコンポーネントです。1784-PCIC(S) は仮想バックプレーンに差し込まれるため、同様に共有できます。

この手順については、ヘルプの “ Sharing the RSLinx Enterprise virtual backplane with RSLinx Classic ” を参照してください。

# 用語集

**CIP** : Control and Information Protocol ( 制御および情報プロトコル )

**CPR** : Coordinated Product Release ( 調整製品リリース )

**FactoryTalk** : FactoryTalk は、社内の全階層にまたがって情報を共有するために、ロックウェル・オートメーション製品が連動することのできる、サービスとテクノロジーのセットです。

**FactoryTalk Alarms and Events** : FactoryTalk Alarms and Events は、FactoryTalk View など FactoryTalk に参加している製品が、アプリケーション全体に分散しているデバイスから検出されたアラーム情報を使用することができるようになる、分散サービスのセットです。

**FactoryTalk 管理コンソール** : FactoryTalk アプリケーションを構成し管理するために使用されるスタンドアロンツール。このツールは、領域とデータ・サーバ・エレメントの作成、ユーザアカウントとユーザグループの作成、セキュリティ権限の構成、システム全体の診断メッセージの表示などのタスクを実行するのに使用できます。FactoryTalk 管理コンソールは、ほとんどの FactoryTalk 対応ソフトウェア製品と共にインストールされます。

**FactoryTalk ディレクトリ** : FactoryTalk ディレクトリには、分散オートメーションシステムが、使用可能なすべてのデータとサービスを編成し、ブラウズし、検索することができるような情報が含まれています。FactoryTalk Directory には、複数のアプリケーションを含めることができ、同じネットワーク上で複数のオートメーションシステムを稼働させることができます。

**FactoryTalk ライブデータ** : FactoryTalk ライブデータは、FactoryTalk View Site Edition や FactoryTalk Transaction Manager などのクライアントソフトウェア製品に代わって、任意の OPC-DA サーバ ( プロセス制御 - データアクセス用の OLE ) および Live Data サーバとの間でタグ値 ( OPC 項目 ) の読み書きを行なうサービスです。

**GUI** : グラフィカルなユーザインターフェイス

**HMI** : ヒューマン・マシン・インターフェイス

**OPC** : オートメーションデバイスおよびサービスとの通信用インターフェイスを定義する業界標準仕様のセット。OPC 規格を適用すると、異なるベンダーが提供するオートメーションおよび制御アプリケーション、フィールドシステムおよびデバイス、ビジネスおよびオフィスアプリケーションの間で相互運用が可能になります。

**PCCC (PC<sup>3</sup>)** : プログラマブルコントローラ通信コマンド

**アクティベーションファイル**：ロックウェル・ソフトウェア製品を「アクティベート」するためのリード専用のシステムファイル。ソフトウェアは、システムが正しいアクティベーションファイルを検索できる場合のみ実行します。

**アプリケーション**：制御システムを実装するために使用されるデータエレメントのセット。「ネットワークアプリケーション」、「ローカルアプリケーション」を参照。

**オフラインデータ項目**：サーバが現在使用できないものの、サーバ名をブラウズ、選択、および使用することのできるデータ項目（タグ）。オフラインデータ項目は、コントローラのプロジェクトファイルから直接読取られます。

**オンラインデータ項目**：データを提供するために現在サーバが使用可能なデータ項目（タグ）。オンラインデータ項目は、コントローラで定義されたようにコントローラから直接読取られます。

**クライアント**：他のコンポーネントまたはサブシステム（サーバ）によって、提供されるデータまたは機能を使用するコンポーネントまたはサブシステム。この用語は、通信ネットワークを介してサーバコンピュータに接続している、このソフトウェアを実行するコンピュータを指すこともあります。

**構成**：システム用に定義した物理構造に関する情報を含むファイル。このファイルには、ネットワークパス、定義されたドライバとデバイス、データプロバイダ、およびオブジェクトプロトコルのすべてが含まれています。

**サーバ**：インターフェイスのセットを使用してクライアントにサービスを提供するサブシステム

**参照**：あるデータエレメントから別のデータエレメントへのリンク。参照元エレメントが「ソースエレメント」、参照先エレメントが「ターゲットエレメント」と呼ばれます。例えば、グラフィック表示は一般に参照タグで、ランタイムデータと共に提供されます。

**冗長**：メインモジュールに障害が発生した場合にプライマリのハードウェアまたはソフトウェアモジュールの作業を実行できる、スタンバイハードウェアまたはソフトウェアモジュールの可用性に関すること

**ショートカット**：ネットワークに接続するデバイスとそのデバイスが含むデータを表します。ショートカットに関連付けられた通信パスにより、アプリケーションはそのデータの場所を認識できます。このシンボリックな物理デバイスへの参照は、RSLinx Classic 内のトピックと似ています。

**スタンドアロンアプリケーション**：スタンドアロンアプリケーション内のすべてのアプリケーションコンポーネントは、1 台のコンピュータに内にあり、常駐するコンピュータからのみアクセス可能です。スタンドアロンアプリケーションは領域をサポートしません。ローカルアプリケーションともいいます。

**タグ**：デバイスまたはローカルメモリ内にある変数の論理名。例えば、タグは Logix 5000 コントローラ内のプロセス変数を表すことができます。

**チャンネル**：RSLinx Enterprise では、チャンネルはドライバです。

**データ・アクセス・サーバ**：タグを提供するサーバ

**データエレメント**：個別にアドレス指定可能なデータ項目。例えば、タグ (OPC や HMI など) または HMI プロジェクトコンポーネント (グラフィックディスプレイ、イベントファイル、ノード、チャンネルなど) です。

**データプロバイダ**：特定の製品クラスに通知する方法を理解しているロジック。RSLinx Enterprise のビルディングブロックの 1 つであるデータプロバイダは、複数のクライアントのマルチプレクサとして機能し、より効率的な処理のために同時に読取り可能なデータを最適化します。

**展開**：プロジェクトファイルを他のコンピュータの専用ディレクトリにコピーし、配布すること

**ドライバ**：ネットワークインターフェイス (コンピュータをイーサネットネットワークに接続するインターフェイスなど) と対話し、インターフェイスが接続されているネットワークを介した通信パケットの交換を管理するソフトウェア

**ネットワークアプリケーション**：タスクを実行するために、情報と処理作業を共有する、複数の相互接続されたコンピュータを使用するソフトウェアシステム。ネットワークアプリケーションは、複数の FactoryTalk 対応製品からのプロジェクトエレメントを編成します。特定のアプリケーションに参加しているすべてのコンピュータは、ネットワークコンピュータ上にある共通の FactoryTalk Directory を共有しています。分散アプリケーションともいいます。

**パケット**：ネットワークレイヤで交換可能な送信単位

**バス**：RSLinx Enterprise では、バスはネットワーク、ドライバ、またはシャーシとして定義されます。

**分散アプリケーション**：「ネットワークアプリケーション」を参照

**ランタイム**：制御システムの操作に関すること

**領域**：領域は、は、分散ネットワークアプリケーションを論理的および物理的なまとまりに編成し、細分します。例えば、個別の領域は、施設内の個別の製造ライン、異なる地理的場所の個別のプラント、または異なる製造肯定に対応します。領域は、ローカルアプリケーションでは使用できません

**ローカル**：タスクを実行するために 1 台のコンピュータを使用することに関すること

**ローカルアプリケーション**：ローカルアプリケーションは、常駐するローカルコンピュータからのみアクセス可能です。コンピュータがネットワークに接続されていたり、ネットワークアプリケーションが同じコンピュータ内に常駐している場合でも、ローカルアプリケーションは内蔵式のまま、データやプロジェクトエレメントを共有しません。ローカルアプリケーションは領域をサポートしません。スタンドアロンアプリケーションともいいます。

# 索引

## A

Alarms and Events タブ ■ 5-3

## C

CIP (Control and Information Protocol) ■ B-2

Communication Setup エディタ、作業 ■ 4-4

## E

Ethernet ネットワーク、ドライバの追加 ■ 6-1

## F

FactoryTalk, 基本概念 ■ 2-3

FactoryTalk View Machine Edition ■ 7-3

FactoryTalk View Site Edition ■ 7-3

FactoryTalk View Studio ■ 2-5, 7-2

FactoryTalk アクティベーション ■ 2-4

FactoryTalk 管理コンソール ■ 2-4

起動 ■ 4-1

ユーザ・インターフェイス・コンポーネント  
■ 4-1, 4-2

FactoryTalk サービスプラットフォーム

インストール ■ 3-3

説明 ■ 2-3

FactoryTalk 診断 ■ 2-4, 7-2

FactoryTalk セキュリティ ■ 2-4

FactoryTalk ディレクトリ ■ 2-3

FactoryTalk ライブデータ ■ 2-3

## G

General タブ ■ 5-1

## M

Machine Edition, FactoryTalk View ■ 7-3

## P

PCCC ネットワーク ■ B-2

## R

Redundancy タブ ■ 5-2

RSLinx 2.x, 「RSLinx Classic」を参照

RSLinx Classic ■ 7-3

RSLinx Classic, RSLinx Enterprise との使用 ■ C-1

RSLinx Enterprise

Communication Setup エディタ ■ 4-4

RSLinx Classic の使用 ■ C-1

インストール ■ 3-1

基本概念 ■ 2-3

既存のインストールの更新 ■ 3-4

構成の移動 ■ B-2

構成の作成 ■ 6-1

システム要件 ■ 3-1

ショートカットの作成 ■ 6-3

設計時間とランタイム ■ 2-5

定義 ■ 2-1

デバイスの追加 ■ 6-2

特長および利点 ■ 2-2

ドライバの追加 ■ 6-1

トラブルシューティング ■ 7-1

RSLinx Enterprise サーバプロパティ

General タブ ■ 5-1

Redundancy タブ ■ 5-2

RSLinx Enterprise のインストール ■ 3-1

## S

Site Edition, FactoryTalk View ■ 7-3

## あ

アクティベーション ■ 7-3

インストール ■ 3-3

アプリケーション、概要 ■ 2-4

## い

イベントログ、FactoryTalk Diagnostics ■ 7-2

移動

RSLinx Enterprise 構成 ■ B-2

ショートカット ■ B-2

デバイスおよびドライバ ■ B-4

インストールおよび構成 のチェックリスト ■ 2-6

## お

オフライン・タグ・ファイル ■ 6-4

## か

仮想バックプレーン

説明 ■ B-1

ブラウズ ■ 6-2

## き

既存の RSLinx Enterprise インストールの更新  
■ 3-4

## こ

構成

移動 ■ B-2

作成 ■ 6-1

コンサルティングサービス ■ 1-2

更新、チェック ■ 3-4

## し

システム要件、RSLinx Enterprise ■ 3-1

事前定義された項目 ■ 7-2

自動実行 ■ 3-2

ショートカット

移動 ■ B-2

作成 ■ 6-3

ショートカットの作成 ■ 6-3

## せ

設計時間コンポーネント ■ 2-5

## そ

ソフトウェア要件、RSLinx Enterprise ■ 3-1

## た

タグブラウズ ■ 7-2

## ち

チェックリスト、インストールおよび構成 ■ 2-6

## つ

追加、データサーバ ■ 4-3

## て

テクニカルサポート ■ 7-4

データサーバの追加 ■ 4-3

デバイス

移動 ■ B-4

追加 ■ 6-2

デバイスショートカット、作成 ■ 6-3

デバイスの追加

自動 ■ 6-2

手動 ■ 6-2

## と

ドライバ

移動 ■ B-4

追加 ■ 6-1

ドライバの追加 ■ 6-1

トラブルシューティング ■ 7-1

トレーニングプログラム ■ 1-2

## な

ナレッジベース ■ 1-2

## ね

ネットワークアプリケーション ■ 2-4

ネットワークの経路、サポートされる ■ B-2

## は

ハードウェア要件、RSLinx Enterprise ■ 3-1

## ふ

ブラウズ

仮想バックプレーン ■ 6-2

タグ ■ 7-2

デバイス ■ 6-2

## へ

ヘルプ、アクセス ■ 1-1

## ら

ランタイムコンポーネント ■ 2-5

## り

リリースノート ■ 1-2, 3-2

## ろ

ローカルアプリケーション ■ 2-4



[www.rockwellautomation.com](http://www.rockwellautomation.com)

---

**Power, Control and Information Solutions Headquarters**

Americas: Rockwell Automation, 1201 South Second Street, Milwaukee, WI 53204-2496 USA, Tel: (1) 414.382.2000, Fax: (1) 414.382.4444

Europe/Middle East/Africa: Rockwell Automation, Vorstlaan/Boulevard du Souverain 36, 1170 Brussels, Belgium, Tel: (32) 2 663 0600, Fax: (32) 2 663 0640

Asia Pacific: Rockwell Automation, Level 14, Core F, Cyberport 3, 100 Cyberport Road, Hong Kong, Tel: (852) 2887 4788, Fax: (852) 2508 1846

Publication Number LNXENT-GR001E-JA-E-June 2009

Supersedes Publication LNXENT-GR001D-EN-E

©Copyright 2009 Rockwell Automation. All rights reserved. Printed in USA